

令和元年度

「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会

Fukushima Federation of consumers' organizations

(令和2年2月作成)

令和元年度「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会

平成23年3月11日の東日本大震災からもうすぐ9年を迎えます。福島県は原発事故により県内外への避難者も多くおりましたが、除染等により帰還困難区域も少なくなりました。

しかしながら風評による農林水産物の売上げ減少は今も続いています。

当団体では、平成23年に体験記録集を作成し、平成24年から「食や放射能、風評に関する意識調査」を8年間実施してきました。今年も大学生および福島県民、そして会員から回答をいただき、その結果をまとめました。

【調査 対象】福島県民および福島県消費者団体連絡協議会の会員

【調査 方法】会員を通して配布・回収及び生活展等会場での記入

【調査 期間】主に令和元年7月から8月及び生活展等

【調査 項目】質問9項目

【有効回答数】1,334人（配布数1,550枚、回収率86%）

	頁
年代別・男女別人数	1
質問 1 食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？	2
質問 2 福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています、ほとんど検出されていませんが、知っていますか？	3
質問 3 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？	4
質問 4 ①福島県産米は現在、全量全袋検査をしています。県では平成30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表しました。今後の検査について伺います。	5
②福島県産米の全量全袋検査をこれまでどおり、すべて検査した方がよい、と答えた方に伺いました。全量全袋検査はあと何年必要ですか？	6
質問 5 現在福島県内にはモニタリングポスト（リアルタイム線量測定システム）が設置されていますが、知っていますか？	7
質問 6 現在設置されているモニタリングポストの配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。	8
質問 7 福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう！』をテーマに活動しています。「エシカル消費」について伺います。	9
質問 8 「エシカル消費」に関する消費行動として次のようなことがあります、あなたにできることはありますか？	10
質問 9 地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何ですか？	11
まとめ アンケート調査を実施して	12
質問ごとの年代別集計表	13
調査用アンケート用紙	16
令和元年度 福島県消費者団体連絡協議会の主な活動	

回答者の年代別・男女別人数

配布数 1,550 枚

回収数 1,337 枚

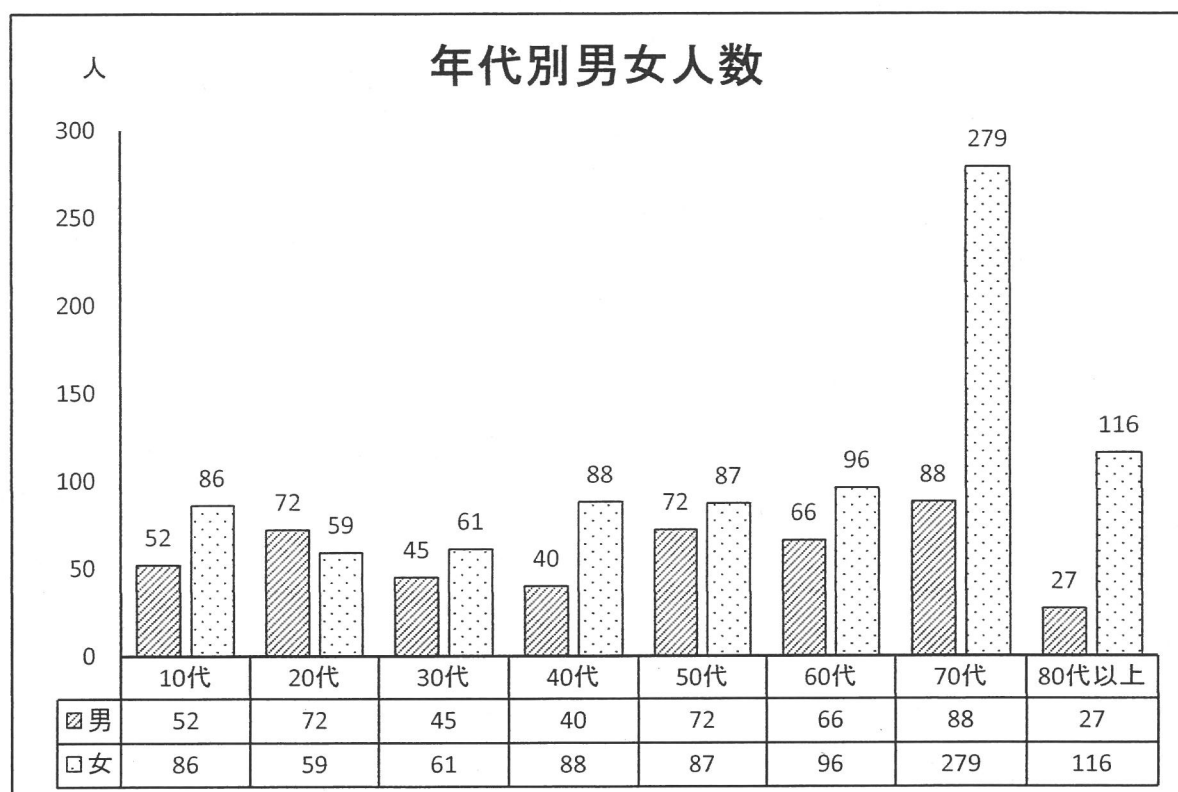
有効回答数 1,334 枚

回収率 86 %

1,334人

男性 462人 (35 %)

女性 872人 (65 %)



- ・回答者 1,334人のうち、男性は462人(35%)、女性は872人(65%)です。
- ・70代女性が多いのが特徴です、他の年代はいままでよりばらつきが減っています。
- ・年代は 10代 138人(10.3%) 20代 131人 (9.8%) 30代 106人(8%)
 40代 128人(9.6%) 50代 159人 (11.9%) 60代 162人(12.2%)
 70代 367人(27.5%) 80代以上 143人(10.7%)
- ・10代から30代は375人で約28%、40代まで含めると503人で38%、全体の約4割を占めています。
- ・今年は2大学の学生参加により、10代138人中 125人、20代131人中 79人、10代20代の合計 269人中 204人(76%)が学生でした。
 昨年188人中 126人(67%)でしたので、今年は9ポイントの増となっています。

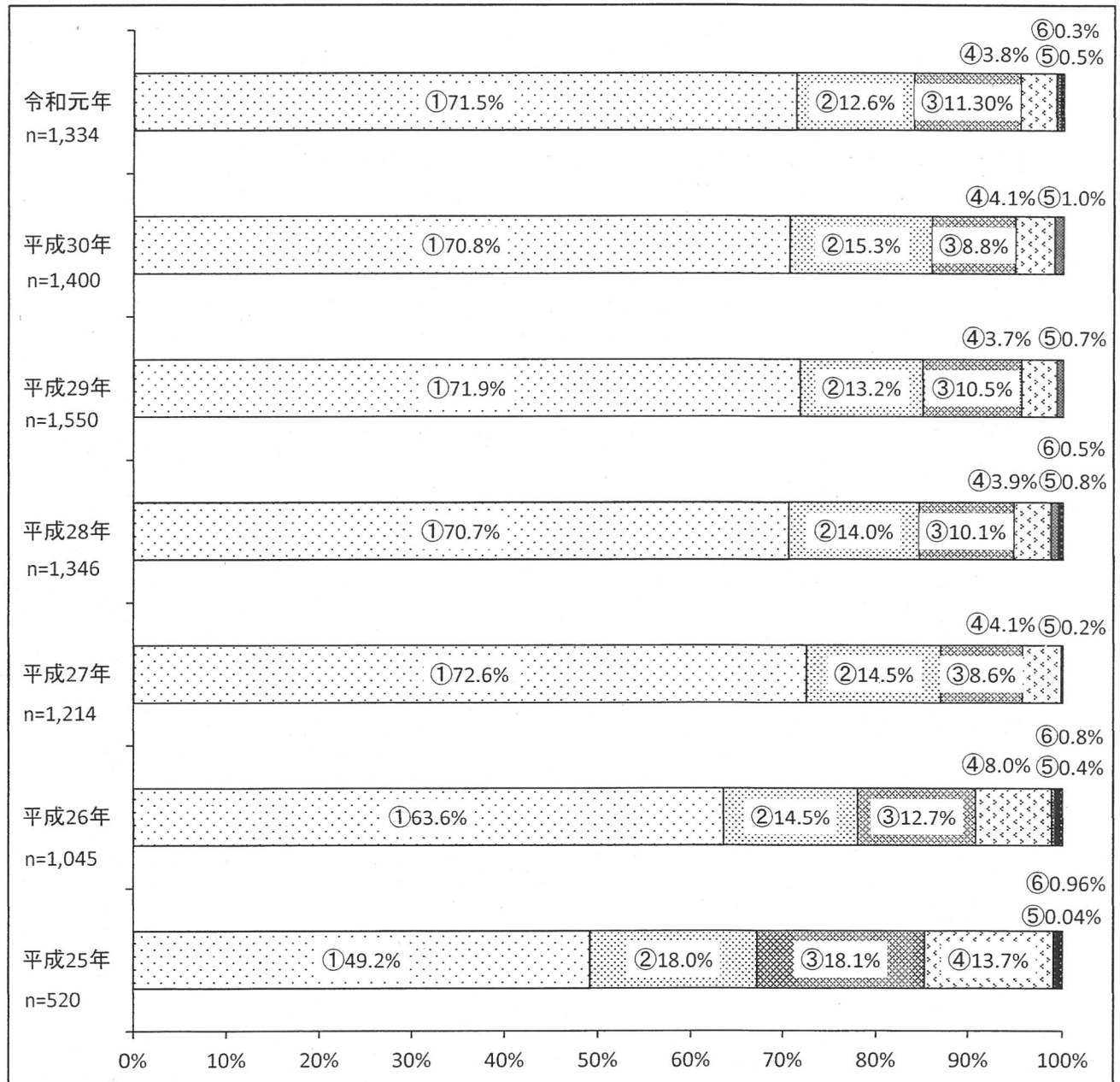
《 回答者の市町村名 》

福島市、郡山市、伊達市、二本松市、白河市、会津若松市、須賀川市、
 本宮市、田村市、相馬市、川俣町、猪苗代町、南会津町、会津美里町、
 浪江町、桑折町、小野町、石川町、棚倉町、飯舘村、大玉村、西郷村。

質問1「食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？」

以下からひとつを選択

- ①国産(居住地付近の地場産) ②国産(①以外の福島県産) ③国産(近隣県産)
④国産(①～③以外の産地) ⑤外国産 ⑥その他



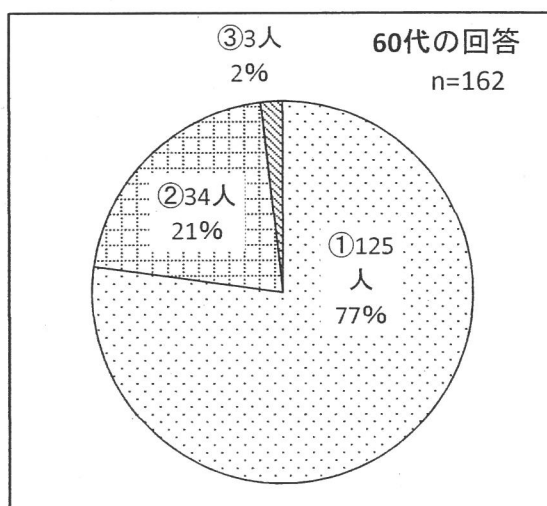
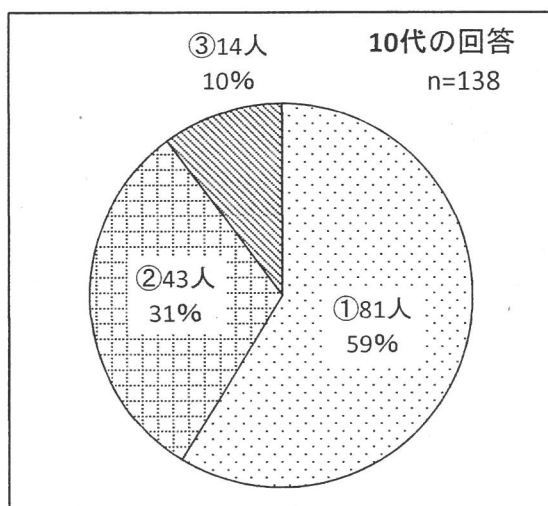
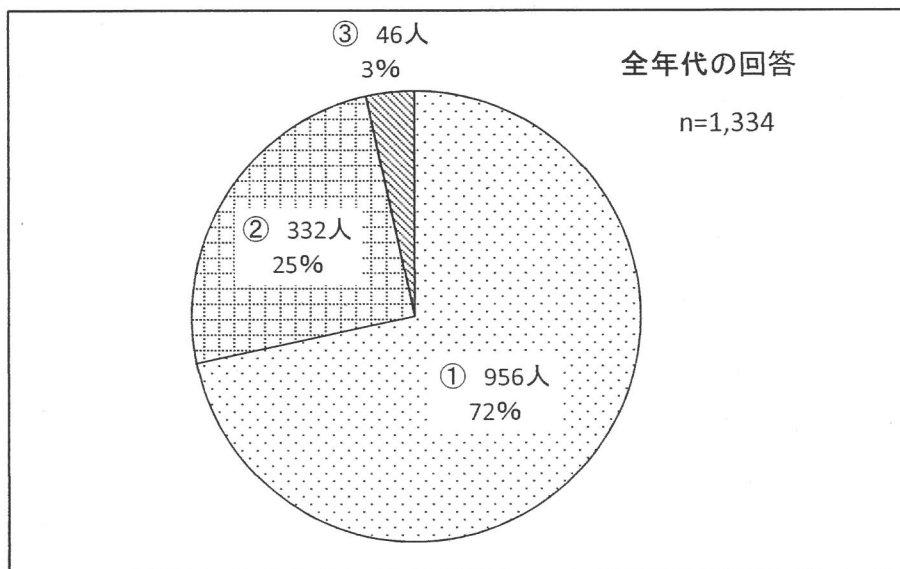
令和元年の結果は、

- ・ 県内産志向がこの5年間続いています。
- ・ ①地場産と②福島県産は全体の84.1%、昨年の86.1%より2.0ポイント減少しています。
- ・ 地場産や福島県産を購入する傾向が強い60代以上では、90%以上の方が①地場産や②福島県産を購入する、と回答しています。

質問2 「福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。ほとんど検出されていませんが、知っていますか？」

以下からひとつを選択

- ① 検査も検査結果も知っている
- ② 検査は知っていたが検査結果は知らない
- ③ 検査も検査結果も知らない



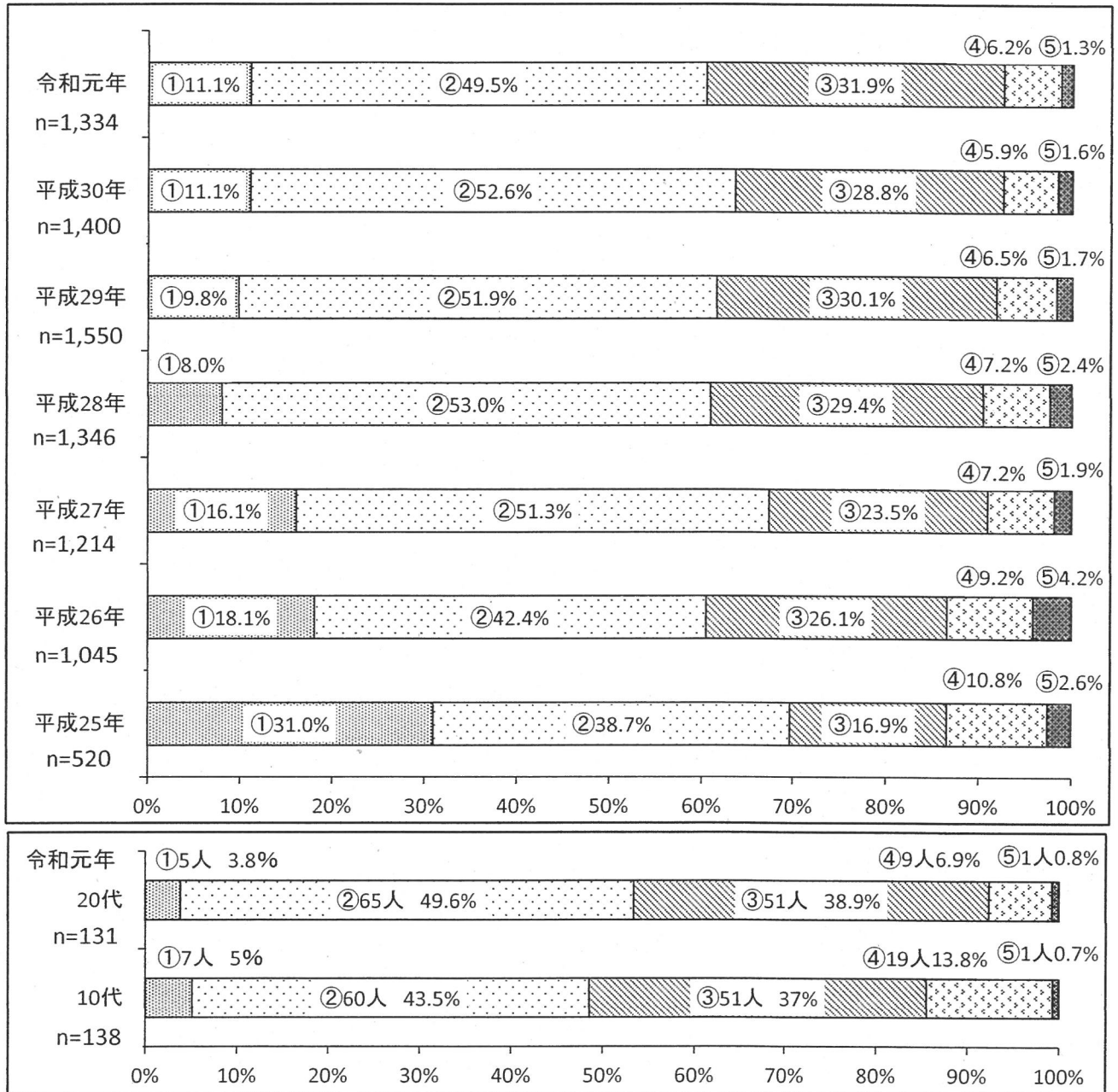
- ・① 検査も検査結果も知っている人は956人(72%)で昨年の907人(65%)より7ポイント増加しました。
- ・② 検査は知っていたが検査結果は知らない人は332人(25%)で、昨年の432人(31%)より6ポイント減少しました。
- ・③ 検査も検査結果も知らない人は46人(3%)で、昨年の61人(4%)より減少しました。

* 放射性物質の検査結果の公表については10代で大きな変化が見られました。昨年は118人中、②が58人(49%)という特徴がありましたが、今年は138人中、①が81人(59%)になり、他の年代と同様に①が一番多くなりました。

質問3「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど 小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？」

以下からひとつを選択

- ①基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ②基準値以内であれば、他の発がん性要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤その他

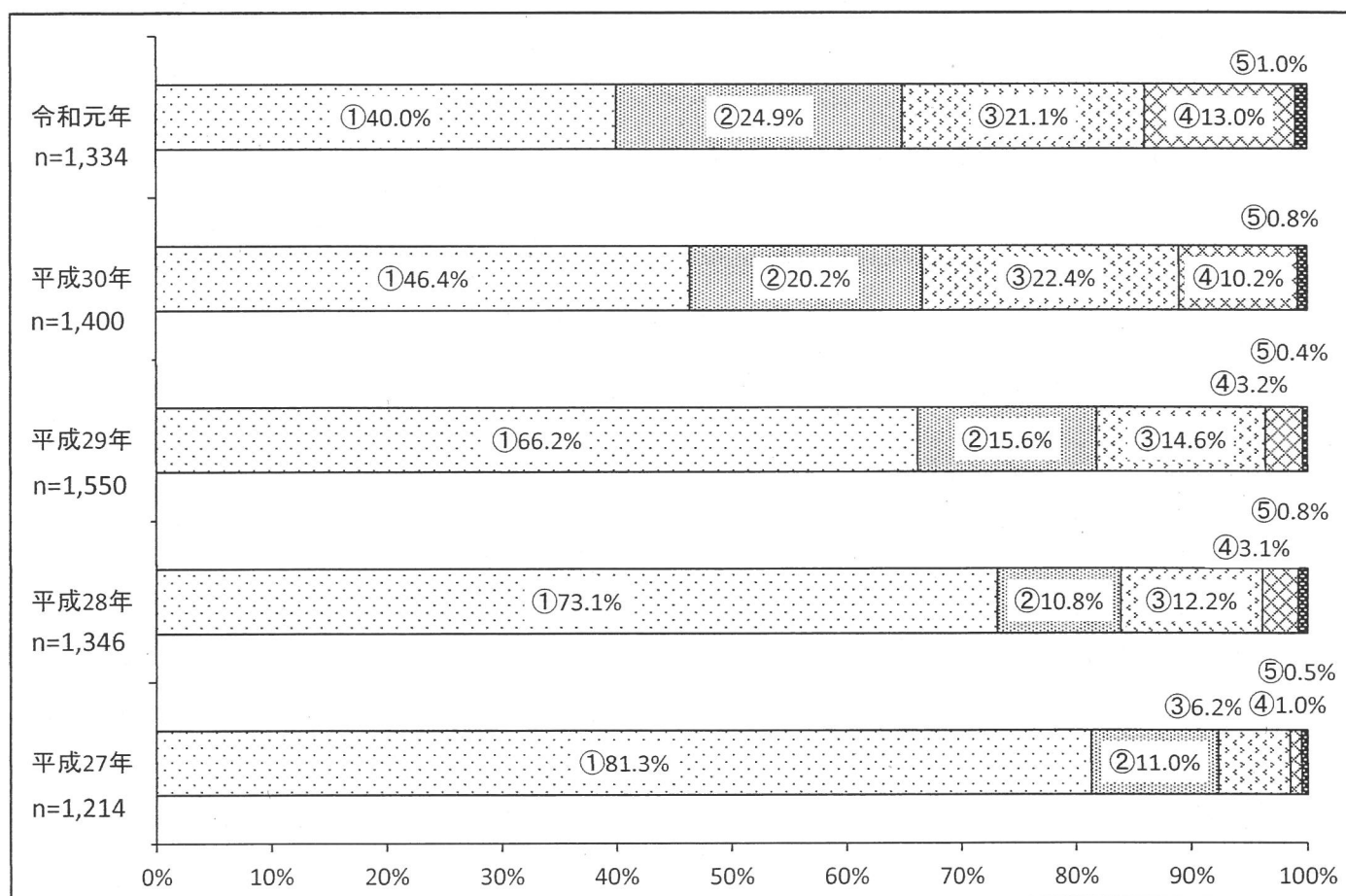


- ・全体では、②および③を選択した人の割合は81.4%と高く、ここ4年間続いています。
- ・「①受け入れられない」が全体では11.1%と昨年と同じでした。
10代及び20代(回答者は主に大学生)では、約5%以下だったのに対して、割合は30代以下より40代以上の方が高く、特に80代では16.8%と高くなっています。
- ・「③ことさら気にしない」は、10代で37%、20代で38.9%、30代で38.7%と高くなっています。
- ・【消費者庁風評調査31】では、①17.0% ②34.4% ③18.0% ④29.8% ⑤0.8%です。大きな経年変化は見られず、毎年④が30%前後となっています。これは当団体の6.2%と大きな差があります。

質問4-①「福島県産米は現在、全量全袋検査をしています。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表しました。今後の検査について伺います。」

以下からひとつを選択

- ① これまでどおり、すべて検査
- ② 米を作っている農家ごとにサンプル検査
- ③ 市町村単位で、サンプルを選んで検査
- ④ 福島県産米すべてを検査しなくてもよい
- ⑤ その他



【 米の全量全袋検査の今後について 】

- ・一番多かったのは、
「①福島県産米はこれまでどおり、すべて検査」と回答した方が、534人(40.0%)。
平成30年に比べて約6ポイント減少し、平成27年の81.3%と比べると半減したのが特徴です。
- ・「②米を作っている農家ごとにサンプル検査」は332人(24.9%)と 昨年より約5ポイント増加しました。
- ・「③市町村単位で、サンプルを選んで検査」は282人(21.1%)と昨年より約1ポイント減少しました。
- ・「④すべてを検査しなくてもよい」は173人(13.0%)、昨年より約3ポイント増加しました。

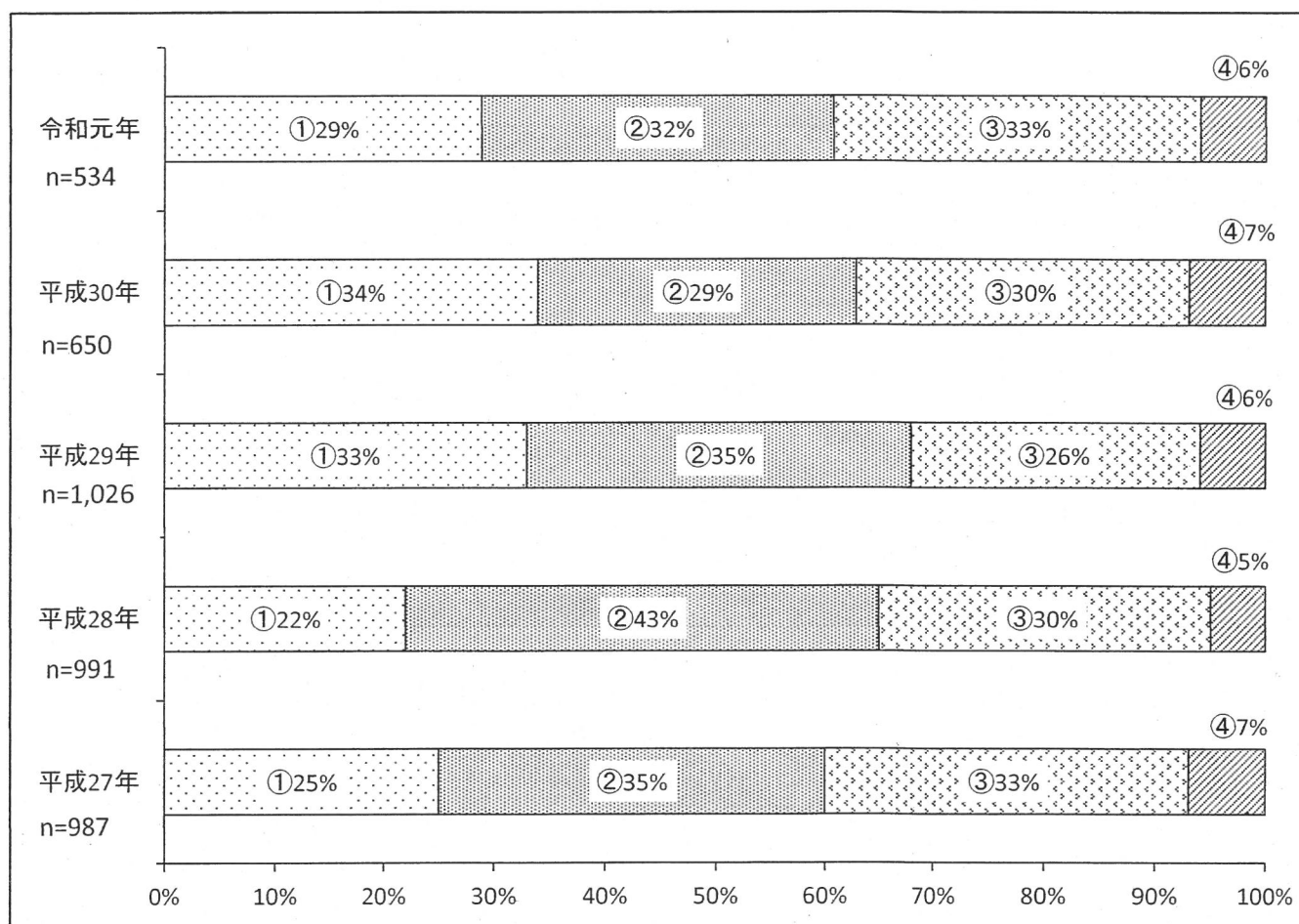
* すべて検査が必要という人は毎年減少しています。

質問 4-② 「福島県産米の全量全袋をこれまでどおり、すべて検査」と答えた方(534人)に伺いました。

「全量全袋検査は、あと何年必要ですか？」

以下からひとつを選択

- ① あと 1 ～ 3 年必要
- ② あと 5 ～ 10 年必要
- ③ あと 10年以上必要
- ④ その他



質問4-① 「福島県産米の全量全袋をこれまでどおり、すべて検査」と答えた方(534人)に「あと何年必要か」伺いました。

- ① あと 1～3 年必要 ⇒ 29%(155人)、昨年より5ポイント減少しました。
- ② あと 5～10 年必要 ⇒ 32%(170人)、昨年より3ポイント増加しました。
- ③ あと 10年以上必要 ⇒ 33%(175人)、昨年より3ポイント増加しました。

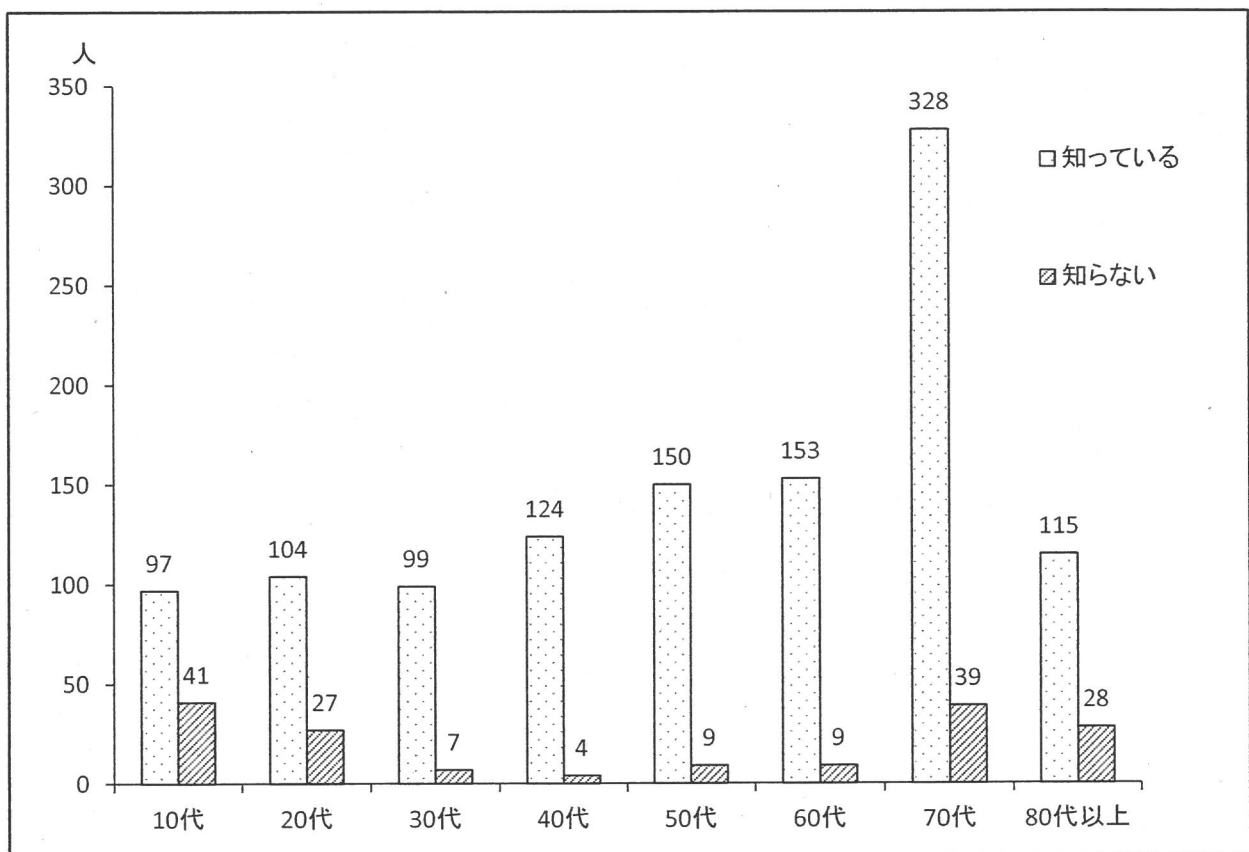
・全量全袋検査を望んでいる方(534人)のうち、「③ あと10年以上継続してほしい」という方が一番多い結果となりました。特に、40代(62人)では、半数(31人)が10年以上を希望しています。

・①②③の割合に若干の差はありますが、ほぼ同じ割合になっています。

質問5 「現在福島県内にはモニタリングポスト(リアルタイム線量測定システム)が設置されていますが、知っていますか。」

① 知っている

② 知らない



【 モニタリングポスト(リアルタイム線量測定システム)が設置されていることについて】

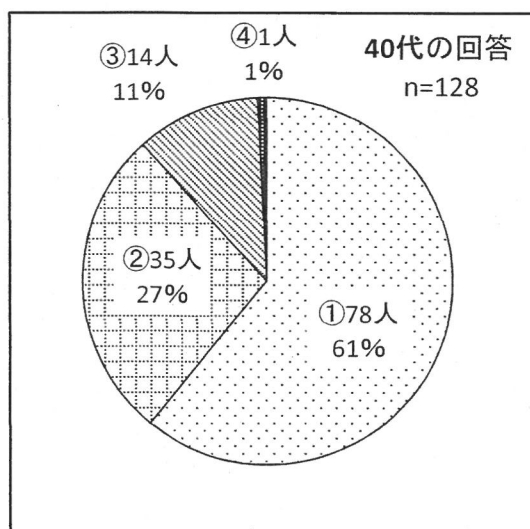
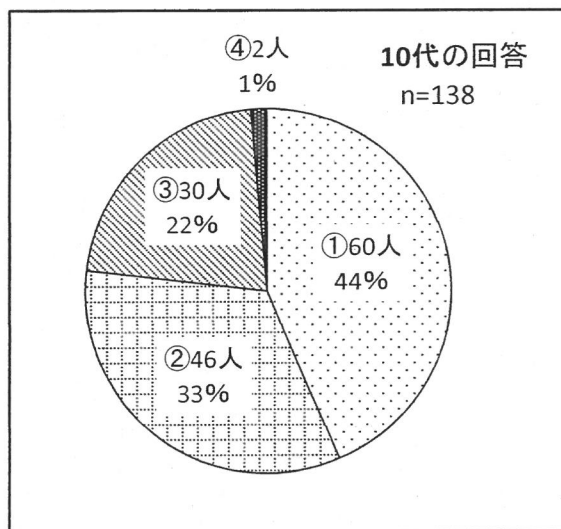
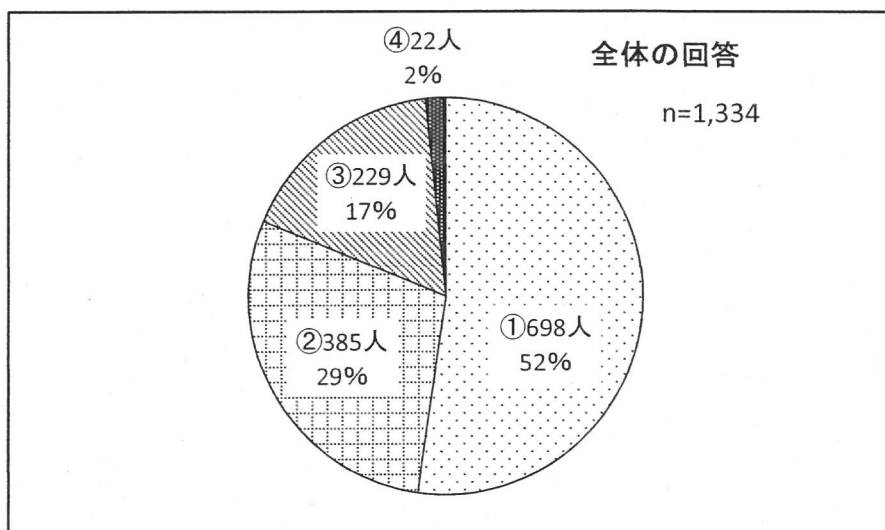
・どの年代も知っている方が大変多かったです。

・特に、知っている方の割合が一番多かったのは40代の97%(知らない方は3%)に対し、知っている方が少なかったのは、10代の70%(知らない方は30%)でした。

質問6 「現在設置されているモニタリングポスト(リアルタイム線量測定システム)の配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。」

以下からひとつを選択

- ① モニタリングポストは撤去せず、測定はそのまま継続してほしい。
- ② 線量が低くなっているモニタリングポストは撤去し、それを避難指示区域等へ設置してほしい。
- ③ 配置の見直しについて、住民と話し合いをしてほしい。
- ④ その他



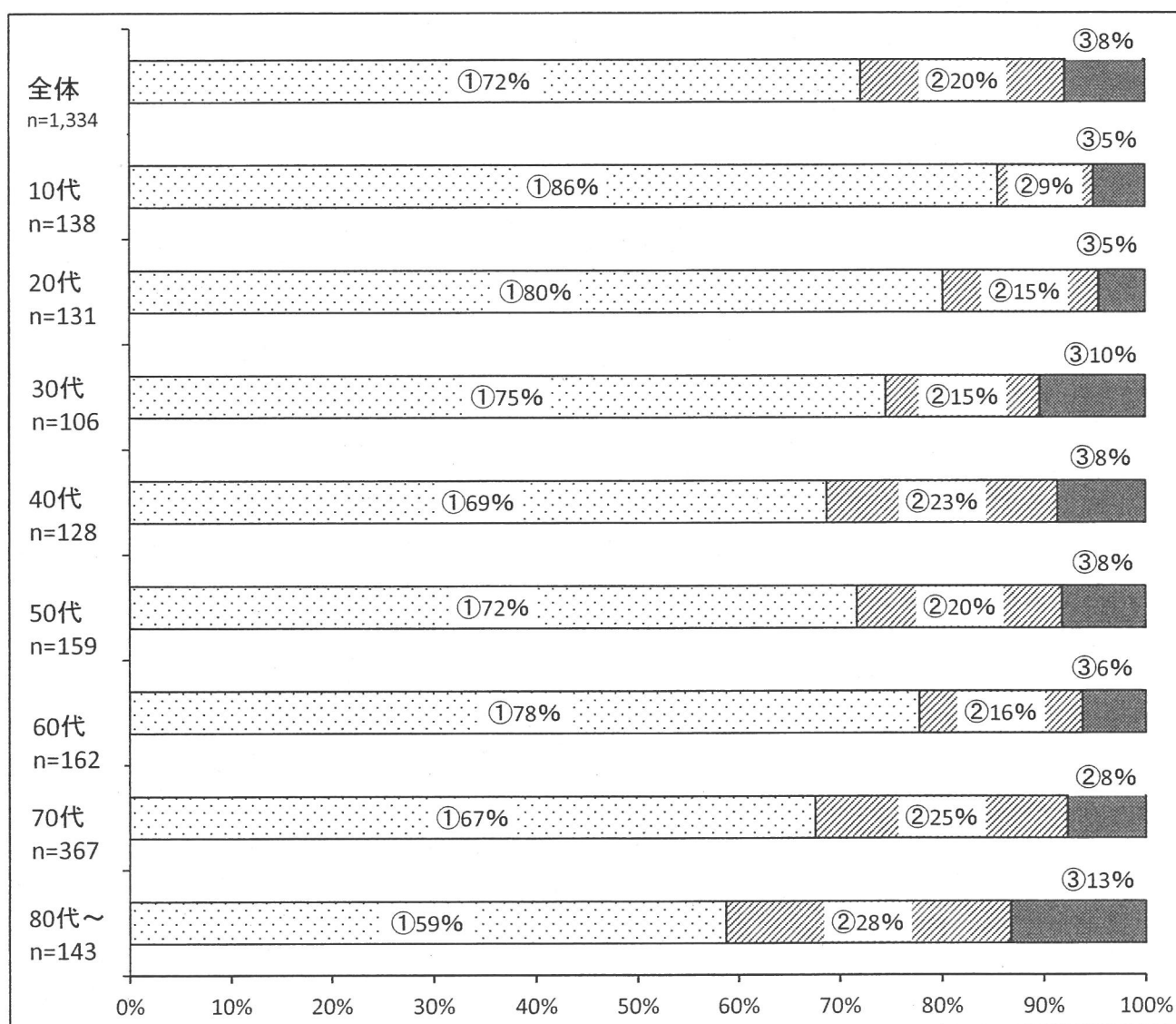
・モニタリングポストは撤去せず、測定継続を望む方が 52%、配置の見直しを希望する方は29%、配置の見直しについては住民と話し合ってほしい方が17%です。

・どの年代も①そのまま継続してほしいが一番多かったですが、年代により希望する割合に違いがありました。

質問7 「福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう!』をテーマに活動しています。『エシカル消費』について伺います。」

以下からひとつを選択

- ① 「エシカル消費」を知らない
- ② 「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない
- ③ 「エシカル消費」の内容まで知っている

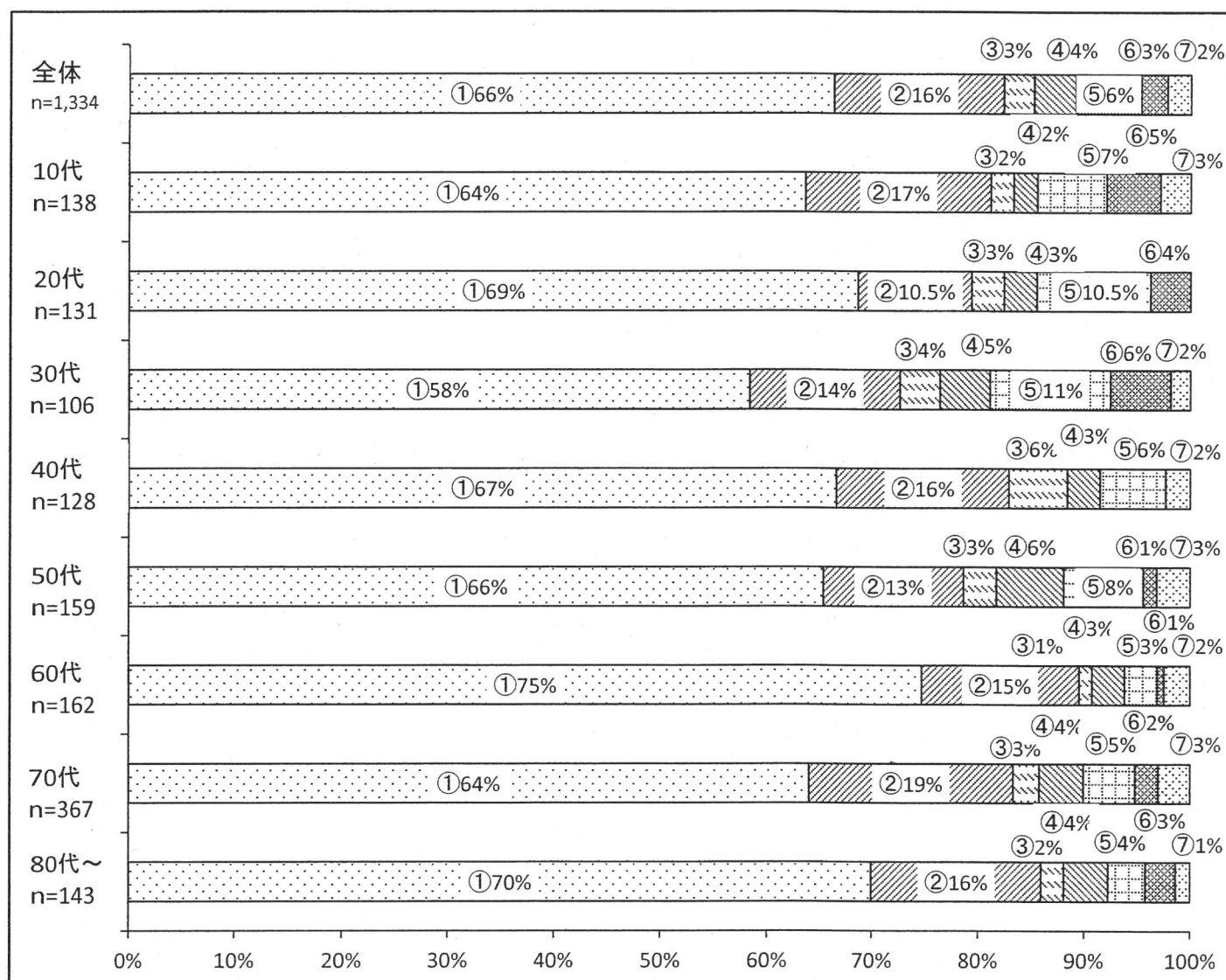


- ・どの年代も①「エシカル消費」を知らないが一番多く、全体では962人(72%)です。
特に、10代が一番割合が多く 118人(86%)が知らないと回答しています。
- ・次に多かったのは、②「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らないです。
全体では267人(20%)です。
- ・③「エシカル消費」の内容まで知っていると回答したのは全体で105人(8%)です。
80代以上が一番割合が多く19人(13%)、次に30代の11人(10%)でした。

質問8 「『エシカル消費』に関する消費行動として次のようなことがありますか、あなたにできることはありますか？」

以下からひとつを選択

- ① 地元の産品を買う(地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減)
- ② エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ
- ③ フェアトレード商品を選ぶ(発展途上国の原料や製品を適正な価格で取引された商品)
- ④ 福祉作業所などの製品を買う(障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ)
- ⑤ 被災地の産品を買う(被災地の特産品を消費することで経済復興を応援)
- ⑥ 寄付付き商品を選ぶ(売り上げの一部を環境保全やボランティアに寄付する商品)
- ⑦ その他

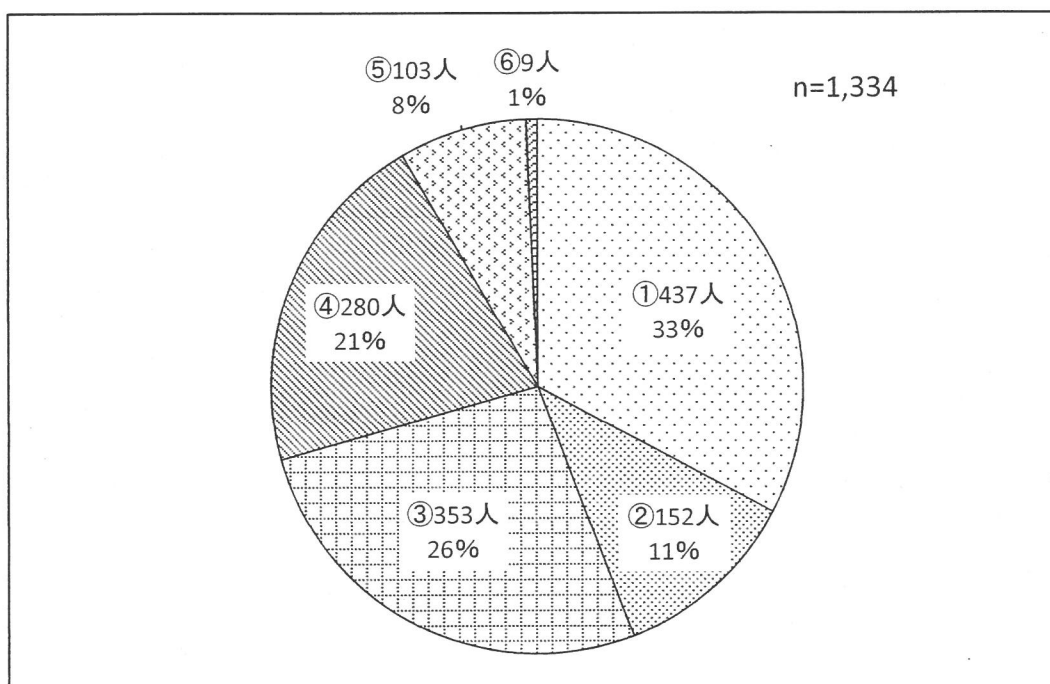


- ・どの年代も「①地元の産品を買う」が最も多く、全体の66%、年代では60代の75%(121人)が一番多かったです。
- ・次に多かったのは、「②エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ」で、16%(213人)でした。
- ・第3位は、「⑤被災地の産品を買う」が6%(83人)でした。

質問9 「地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何です

以下からひとつを選択

- ① 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- ② 使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- ③ マイバック、マイボトルを持参する
- ④ リデュース(ごみを減らす)、リユース(くり返し使う)、リサイクル(再利用)する
- ⑤ エネルギー(例:電気、ガス、ガソリン等)を大切に使い、省エネにつとめる
- ⑥ その他



多かった順に並べると

- 1位 ① 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- 2位 ③ マイバック、マイボトルを持参する
- 3位 ④ リデュース(ごみを減らす)、リユース(くり返し使う)、リサイクル(再利用)する
- 4位 ② 使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- 5位 ⑤ エネルギー(例:電気、ガス、ガソリン等)を大切に使い、省エネにつとめる
- 6位 ⑥ その他

・10代・20代で一番多かったのは、「③ マイバック、マイボトルを持参する」でした。

・その他の年代はいずれも、「① 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う」が第1位でした。

アンケート調査を実施して！

- 1 平成23年3月11日の東日本大震災からもうすぐ9年を迎えます。福島県は原発事故により県内外への避難者も多くおりましたがすこしづつ戻って来ています、また除染等により帰還困難区域もわずかになりました。しかし、風評による影響で農林水産物の売上げは震災前までに回復していません。
当団体では、これまで「食や放射能、風評に関する意識調査」を8年間実施してきました。
- 2 回答者は1,334人（昨年は1,400人）、皆様のご協力に大変感謝申し上げます。回答者の数は昨年と違い70代を除けば年代ごとの人数の差は少なくなりました。しかし、回答者の4人に1人が70代の方です、この点をご考慮ください。
- 3 今年も2大学の学生参加により、10代138人中125人、20代131人中79人（計204人）から回答をいただきました。20代・30代の76%が学生です。
- 4 食料品の購入では、この5年間、地場産・県内産が8割を超え県内産志向が続いています。
- 5 放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクについては、一番多かったのは、「基準値以内であれば、他の発がん性要因（喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど）と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる」を選択した人は、約50%と一番多くなっています、この傾向は5年間続いています。
- 6 福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています、全体の回答で一番多かったのは検査も検査結果も知っている、956人（72%）です。
- 7 福島県産米は現在、全量全袋検査をしています。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表しました。
今後の検査に対して一番多かったのは、「①福島県産米はこれまでどおり、すべて検査」と回答した人が、534人（40%）です。平成30年に比べて約6ポイント減少し、平成27年の81.3%と比べると半減したのが特徴です。
米の全量全袋検査ではなく、農家ごと、市町村単位でのサンプル検査と回答した方は全体の46%でした。また、13%の方が、すべて検査しなくてもよいと回答したのが特徴です。検査結果は「ふくしまの恵み安全対策協議会」「ふくしま新発売」HPで確認することが出来ますので自分で調べることが大切だと思います。
- 8 モニタリングポストの配置見直しが検討されていることについては、モニタリングポストは撤去せず、測定継続を望む人が52%、配置の見直しを希望する人は29%、配置の見直しは住民と話し合ってほしい人が17%でした。どの年代も撤去せず測定をそのまま継続してほしい、が一番多くなっています。
- 9 今回、はじめて「エシカル消費」について取り上げ質問しました。「エシカル消費」は分かりやすく言うと「思いやり消費」のことです。人も自然も傷つけず、みんなが笑顔になる買い物をしたいという思いから、人や社会、環境に配慮した「物」や「サービス」を選んで消費することです。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs：エスディーゼーズ）」、つまり「世界を変えるための17の目標」の12番目、「つくる責任・つかう責任」に「エシカル消費」を求めています。この「エシカル消費」は福島の風評をなくすことに繋がると私たちは考えています。
この「エシカル消費」の言葉を知っているか、内容まで知っているかなどを伺いました。「エシカル消費」を知らない方は、全体の72%と大変多いことがわかりました。
また、「エシカル消費」を実践するため、「どのような消費行動ができるか」については、「地元の産品を買う」が66%と1番多く、次は「エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ」で16%でした。
- 10 地球温暖化防止やプラスチックごみ問題などに対応するため、日常生活で大切なことを伺いました。1番多かったのは、「買い物は必要なものを、必要な量だけ買う」が33%、次は「マイバック、マイボトルを持参する」で26%でした。
- 11 私たちは「エシカル消費」を心がけ、毎日の買い物を通し、消費行動を変えて行かなければならないと思います。

令和元年度「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会 〈 質問ごとの年代別集計表 〉

(人)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
計	1334	138	131	106	128	159	162	367	143
男	462	52	72	45	40	72	66	88	27
女	872	86	59	61	88	87	96	279	116

質問1「食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？」(ひとつに○)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	国産(居住地付近の地場産)	954	71	66	62	93	125	128	294	115
②	国産(①以外の福島県産)	168	15	15	18	17	15	21	50	17
③	国産(近隣県産)	150	33	35	18	14	10	9	22	9
④	国産(①～③以外の産地)	51	16	10	6	4	9	3	1	2
⑤	外国産	7	3	4	0	0	0	0	0	0
⑥	その他	4	0	1	2	0	0	1	0	0

質問2「福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。
ほとんど検出されていませんが、知っていますか？」(ひとつに○)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	検査も検査結果も知っている	956	81	82	68	88	113	125	292	107
②	検査は知っていたが、 検査結果は知らない	332	43	40	35	39	38	34	71	32
③	検査も検査結果も知らない	46	14	9	3	1	8	3	4	4

質問3「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクを
どう受け止めますか？」(ひとつに○)

- ① 基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ② 基準値以内であれば、他の発がん性要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③ 放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④ 十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤ その他

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	受け入れられない	148	7	5	9	17	24	20	42	24
②	受け入れられる	660	60	65	47	72	73	84	192	67
③	ことさら気にしない	426	51	51	41	27	55	50	109	42
④	リスクを考えられない	83	19	9	8	11	5	7	17	7
⑤	その他	17	1	1	1	1	2	1	7	3

質問4「福島県産米は現在、全量全袋検査をしています。県では30年3月に『今後、検査結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表しました。今後の検査について伺います。」(ひとつに〇)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	これまでどおり、すべて検査	534	52	43	34	62	65	69	150	59
	〃 あと1～3年必要	155	20	10	8	6	19	24	47	21
	〃 あと5～10年必要	170	15	16	12	21	15	23	48	20
	〃 あと10年以上必要	175	13	16	13	31	25	18	48	11
	〃 その他	34	4	1	1	4	6	4	7	7
②	米を作っている農家ごとにサンプル検査	332	36	40	31	31	30	44	88	32
③	市町村単位で、サンプルを選んで検査	282	23	35	26	21	42	27	74	34
④	福島県産米すべてを検査しなくてもよい	173	24	12	13	12	21	20	54	17
⑤	その他	13	3	1	2	2	1	2	1	1

質問5「現在福島県内にはモニタリングポスト（リアルタイム線量測定システム）が設置されていますが、知っていますか？」

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	知っている	1170	97	104	99	124	150	153	328	115
②	知らない	164	41	27	7	4	9	9	39	28

質問6「現在設置されているモニタリングポストの配置見直しが一時延期になり、当面は継続になりました。今後について伺います。」(ひとつに〇)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	撤去せず、測定はそのまま継続してほしい	698	60	56	44	78	75	95	210	80
②	線量が低いポストを避難指示区域等へ配置してほしい	385	46	45	40	35	50	37	99	33
③	配置の見直しは住民と話し合いをしてほしい	229	30	29	18	14	30	28	53	27
④	その他	22	2	1	4	1	4	2	5	3

質問 7「福島県消費者団体連絡協議会では『エシカル消費で社会を変えよう！』をテーマに活動しています。『エシカル消費』について伺います。」(ひとつに○)

		合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	「エシカル消費」を知らない	962	118	105	79	88	114	126	248	84
②	「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない	267	13	20	16	29	32	26	91	40
③	「エシカル消費」の内容まで知っている	105	7	6	11	11	13	10	28	19

質問 8「『エシカル消費』に関する消費行動として次のようなことがありますか、あなたにできることはありますか？」(ひとつに○)

- ① () 地元の産品を買う(地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減)
- ② () エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ
- ③ () フェアトレード商品を選ぶ(発展途上国の原料や製品を適正な価格で取引された商品)
- ④ () 福祉作業所などの産品を買う(障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ)
- ⑤ () 被災地の産品を買う(被災地の特産品を消費することで経済復興を応援)
- ⑥ () 寄付付き商品を選ぶ(売り上げの一部を環境保全やボランティアに寄付する商品)
- ⑦ () その他

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	886	88	90	62	86	104	121	235	100
②	213	24	14	15	21	21	24	71	23
③	37	3	4	4	7	5	2	9	3
④	52	3	4	5	4	10	5	15	6
⑤	83	9	14	12	8	12	5	18	5
⑥	33	7	5	6	0	2	1	8	4
⑦	30	4	0	2	2	5	4	11	2

質問 9「地球温暖化、プラスチックごみ汚染の問題が緊急の課題になっています。私たちの環境を守るため、日常生活で大切なことは何ですか？」(ひとつに○)

- ① () 買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- ② () 使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- ③ () マイバック、マイボトルを持参する
- ④ () リデュース(ごみを減らす)、リユース(くり返し使う)、リサイクル(再利用)する
- ⑤ () エネルギー(例：電気、ガス、ガソリン等)を大切に使い、省エネにつとめる
- ⑥ () その他

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
①	437	28	29	35	41	51	51	136	66
②	152	20	23	14	13	16	16	37	13
③	353	45	51	23	29	38	43	93	31
④	280	31	23	25	29	42	42	63	25
⑤	103	11	4	6	16	11	10	38	7
⑥	9	3	1	3	0	1	0	0	1

令和元年度「放射能による風評等に関するアンケート」

福島県消費者団体連絡協議会

平成 23 年の東日本大震災から 8 年以上経過し、避難されていた方々も新しい生活を送られています、その一方で風評がつづいていることや風化も懸念されます。

今年のアンケートで 8 回目を迎えます、皆様のご協力よろしくお願いします。

市町村名		性別	() 男性 、 () 女性
年代に○	・ 10 代 ・ 20 代 ・ 30 代 ・ 40 代 ・ 50 代 ・ 60 代 ・ 70 代 ・ 80 代以上		

質問 1 「食料品はどの地域の食材を最も多く購入していますか？」 (ひとつに○)

- ① () 国 産 (居住地付近の地場産)
- ② () // (①以外の福島県産)
- ③ () // (近隣県産)
- ④ () // (①～③以外の産地)
- ⑤ () 外国産

質問 2 「福島県では、食品中に含まれる放射性物質の検査結果を公表しています。

ほとんど検出されていませんが、知っていますか？」 (ひとつに○)

- ① () 検査も検査結果も知っている。
- ② () 検査は知っていたが検査結果は知らない。
- ③ () 検査も検査結果も知らない

質問 3 「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか？」 (ひとつに○)

- ① () 基準値以内であっても、少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ② () 基準値以内であれば、他の発がん性要因 (喫煙、毎日 3 合以上飲酒、痩せすぎなど) と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ③ () 放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
- ④ () 十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ⑤ () その他 ()

質問 4 「福島県産米は現在、全量全袋検査をしています。県では 30 年 3 月に『今後、検査結果を確認しながら、通算 5 年間基準値超過がない時点を目安に抽出検査へ移行する』ことを発表しました。今後の検査について伺います。」 (ひとつに○)

- ① () これまでどおり、福島県産米をすべて検査した方がよい。あと何年ですか (ひとつに○)
↳ ・ () あと 1～3 年 ・ () あと 5～10 年 ・ () あと 10 年以上 ・ () その他 (年)
- ② () 米を作っている農家ごとに、サンプルを選んで検査すればよい。
- ③ () 市町村単位で、サンプルを選んで検査すればよい。
- ④ () これまでの検査結果から、福島県産米はもう検査しなくてもよい。
- ⑤ () その他 (具体的には、)



【うらへ続きます】

① () 知っている
② () 知らない

① () モニタリングポストは撤去せず、測定はそのまま継続してほしい。

② () 線量が低くなっているモニタリングポストは撤去し、それを避難指示区域等へ配置してほしい。

③ () 配置の見直しについて、住民と話し合いをしてほしい。

④ () その他(具体的には、)

① () 「エシカル消費」を知らない
② () 「エシカル消費」という言葉は知っているが、内容までは知らない
③ () 「エシカル消費」の内容まで知っている

- ①（ ）地元の産品を買う（地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減）
- ②（ ）エコマークなど認証ラベルのある商品を選ぶ
- ③（ ）フェアトレード商品を選ぶ（発展途上国の原料や製品を適正な価格で取引された商品）
- ④（ ）福祉作業所などの産品を買う（障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ）
- ⑤（ ）被災地の産品を買う（被災地の特産品を消費することで経済復興を応援）
- ⑥（ ）寄付付き商品を選ぶ（売り上げの一部を環境保全やボランティアに寄付する商品）
- ⑦（ ）その他（具体的には、_____）

- ①（ ）買い物は、必要なものを、必要な量だけ買う
- ②（ ）使い捨てのものより、長く使えるものを選ぶ
- ③（ ）マイバック、マイボトルを持参する
- ④（ ）リデュース（ごみを減らす）、リユース（くり返し使う）、リサイクル（再利用）する
- ⑤（ ）エネルギー（例：電気、ガス、ガソリン等）を大切に使い、省エネにつとめる
- ⑥（ ）その他（ ）

ご協力ありがとうございました。（福島県消費者団体連絡協議会）

令和元年度 福島県消費者団体連絡協議会の活動より

月	日	内 容	場 所
4	15	出前講座①川俣町消費生活研究会「ライフプラン」	川俣町鶴沢公民館
	23	総会 第1回研修会「これからの家族信託を考える」 講師：福島県金融広報アドバイザー 坂井義明 氏	県消費生活課研修室
5	19	出前講座②飯館くらしの会「ライフプラン」	飯館村交流センターふれ愛館
	27	消費者月間シンポジウム（消費者庁）	東京都 イイノホール
6	11	出前講座③福島消費生活研究G「エシカル消費上級編」	ウイズもとまち
	11	「羽村市消費者団体との交流会」飯館くらしの会	飯館村交流センターふれ愛館
	15	出前講座④川俣町消費生活研究会「消費税アップに備えて」	川俣町鶴沢公民館
	17～ 18	第1回理事会、第2回研修会、交流会、史跡めぐり 第2回研修会「福島経済の現状と今後の見通し」 講師：日本銀行福島支店長 中山興 氏	飯坂温泉つたや旅館 6構成団体参加 26人
	21	出前講座⑤伊達市保原町消費生活研究会 「老後の生活設計と相続について」	保原町交流センター
7	10	東北電力(株) 女川原子力発電所 視察	5構成団体参加 28人
		アンケート調査（7月～11月）	配布1,550枚 回収1,334枚
8		「エコチャレンジ」参加	6構成団体参加 62人
9	7	「未来館フェスティバル」参加	県男女共生センター
	27	JA福島女性部協議会との交流会	JA福島ビル 6団体参加21人
10	2	出前講座⑥飯館くらしの会「消費税増税と軽減税率」	飯館村交流センターふれ愛館
		「ごみダイエット」参加	4構成団体参加 31人
11	3	「羽村市消費者団体訪問」生活展見学と交流会	東京都羽村市
	11	出前講座⑦白河くらしの会「エシカル消費」	白河中央公民館
	19	出前講座⑧会津若松消費生活研究会「消費税増税」	たちあおい交流スペース
12	6	第2回理事会	県消費生活課研修室
	15	出前講座⑨「消費税増税と軽減税率」 飯館くらしの会と川俣町消費生活研究会との交流会	飯館村交流センターふれ愛館
1		各委員会・審議会・懇談会	
2	4	県消費生活課長にアンケート結果報告	県消費生活課研修室
	14	福島県内消費者団体と東北農政局との意見交換会	福島市市民会館
	17	消費者懇談会（福島県電機商工組合）	県消費生活課研修室
	25	全国消費者フォーラム（第5分科会で発表）	アルカディア市ヶ谷
3	5	第3回理事会	県消費生活課研修室
	17	「企業のエシカル通信簿」発表会（持続可能な市民ネット）	聖心女子大学（東京）
		機関紙「ふくしま消費」第91号発行	

